

食料・農業・農村政策審議会 家畜衛生部会
第109回牛豚等疾病小委員会 概要

- 日時：令和7年11月19日（水）
- 場所：持ち回り開催
- 委員（50音順、敬称略）
 - 臨時委員：内村 江利子、佐藤 真澄、砂川 富正、津田 知幸（委員長）
 - 専門委員：入江 正和、菅野 宏、國保 健浩、嶋田 誠司、長井 誠、山本 健久
 - オブザーバー：伊藤 貢、迫田 義博、平田 滋樹
- 概要：
 - ・ 以下の理由から、熊本県を野生いのししに対する豚熱経口ワクチンの散布推奨地域とし、経口ワクチン散布を行うことが適当とされた。
 - ① 隣接県で県内初となる野生いのししにおける豚熱陽性個体が確認されて以降、短期間に陽性事例が連続して確認されており、隣接県内の一部地域に豚熱ウイルスが相当程度浸潤している可能性が高いと考えられること。
 - ② 今般、熊本県に隣接する地域においても豚熱陽性個体が確認されており、当該地域と熊本県との間には高速道路等の物理的障壁がなく、山塊が連なっていること。
 - ③ 現在、繁殖期、狩猟期に入っており、野生いのししの行動範囲が広がっていること。
 - ・ 熊本県に対して、経口ワクチン散布地域を中心に、ワクチン

株と野外株の識別に留意の上、野生いのししにおけるサーベイランスを重点的に実施するよう依頼することとされた。

- 熊本県のみならず、九州全県において野生いのしし捕獲の強化、野生いのししにおける人為的な豚熱感染拡大防止対策の周知徹底を図るとともに、養豚場周囲の草刈り等のいのししの接近阻止、養豚農場における飼養衛生管理の徹底、飼養豚に対する適時適切なワクチン接種、異状豚の早期通報などについても再確認するよう依頼することとされた。

(以上)